

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和四年度十月 入賞句一覽 投句数 五百六 句



奥の細道
むすびの地



特選

田中 青志 選

雲に入り雲から出でし今日の月

大垣市

大杉 すみゑ

雲に叢花に風は、広辞苑などの慣用句訳では好事に邪魔者の入ることとして、詩の世界、詩人の心としては絶好の趣き。風情の詠み場、感じ場なのである。人の世においても、悲しみがあつてこそ幸せの喜びが味わえる。常に平穩で刺激のない暮しは贅沢かも知だが、退屈だ。邪魔者の雲が月を遮り開放する趣きを繰り返すときにこそ詩が生まれ、詩情を感じるところとなるのである。この場合も雲を厭うのではなく、その風情を羨しむ思いを詠っており、邪魔者のない月も美しいけれど、この雲の風情なくして詩情を掻き立てず詩（俳句）としての感動を表現できないことになるのである。

薄れゆく郷の縁やうろこ雲

大垣市

早筈 千恵子

父母が逝き兄が逝き、生まれ故郷との縁が薄くなるのはやむをえないけれど、寂しいことである。生まれ育つた郷はいくつになつても懐かしい。その懐かしさを味わえる機会が少なくなるのは耐えがたいことではあるが、これが世の中というもの。ふるさととは遠くにおいて思うものなのである。

行く夏や代打の白きユニホーム

埼玉県川口市

吉永 寿美子

萬年ベンチウオーマー。この機会を逃したら、実戦経験なきままの卒業となることを、監督の温情で代打での登場機会。真つ白なユニホームは美しいけれど、活躍の場がなかつた柘しい美しさは、汗と泥に塗れた華々しいものではなく、哀れというべきや。せめて最後の見せ場と、頑張つてバットを振つて、哀れ三球三振とは情けないが、この屈辱を是非これからの人生でリベンジして欲しいものである。

秀逸

枕並べ寝て見る窓の外の月

大垣市

山田 千歌子

助手席の西瓜にシートベルト掛け

東京都新宿区

花澤 ちいこ

花芒夕日を浴びてあかね色

大垣市

宇津 香代子

読み止しの本を手にする夜長かな

兵庫県神戸市

岸下 庄二

白露や靴ぬぎて入る懺悔室

愛知県西尾市

金子 主婦

虫時雨闇の広さを使い切る

三重県四日市市

後藤 允孝

慰霊碑に不戦の誓ひ蝉しぐれ

大垣市

高津 喜久子

天高し鷗は羽に風孕み

愛知県尾張旭市

小野 薫

名月や天主に人のシルエツト

京都府京都市

石田 吉之助

一夜ごと名を変へ月の出でにけり

岐阜市

辻 雅宏

入選

廃船の影やはらかき十三夜

名水で淹るる珈琲小鳥来る

蝉しぐれ羅漢の耳朶の長く垂れ

しばらくは己が高さを秋茜

新涼や久しくつけぬ紅をひく

梨狩りの一つを投げ合ふ親子かな

目に耳に鼻にも秋のゆきわたる

治水史の残る境内松手入

赤とんぼ下校の子等の先頭に

蝶々の来て賑はひぬ寺の萩

山が好き空は大好き天の川

少年の夢はパティシエ竹の春

今もなほ稲架整然と千枚田

街中の小さき公園小鳥来る

風の波おほひつくせぬ芒原

雨垂れが夏草狩りの免罪符

われのみのわれとなりけり今日の月

飛蝗飛ぶ飛行機雲の一文宇

残る虫父の逝きたること知らず

秋の夜の旅の支度の句帳かな

一般の部

養老郡養老町

佐藤 咲楽

養老郡養老町

田中 紫香

不破郡垂井町

竹嶋 富美子

岐阜市

堀江 美州

大垣市

山田 千歌子

不破郡垂井町

西田 厚堂

愛知県名古屋市

舘野 茂子

三重県伊賀市

和田 芙美

養老郡養老町

松永 智志

大垣市

傍島 豊子

大垣市

永井 とみ江

三重県四日市市

後藤 允孝

岐阜市

寺町 敬司

静岡県静岡市

松永 信介

大阪府東大阪市

森 佳月

東京都西東京市

石井 一郎

長野県下伊那郡

長沼 まさし

安八郡安八町

渡辺 やちよ

滋賀県大津市

近江 堇花

三重県鈴鹿市

ドラム 佑王

選者吟

雲を出し月に洋々たる前途

青 志

